

エゾシカ・ヒグマワーキンググループの経過報告・今後の予定

1. 令和3年度（2021年度）エゾシカ・ヒグマWGの開催概要

- ・第1回：令和3年（2021年）7月1日(木)～2日(金)
ヒグマ関連（1日目）・エゾシカ関連（2日目）ともに釧路市で開催。以下同。
WG開催に先立ち、7月1日に植生指標検討部会も開催。
- ・第2回：令和3年（2021年）12月2日(木)～3日(金) ともに釧路市開催。
WG開催に先立ち、10月27日に植生指標検討部会を別途開催。
- ・第3回：令和4年（2022年）2月15日(火)～16日(水) ともにWeb開催。

2. 今年度の主な経過報告

「第2期知床半島ヒグマ管理計画」及び「第4期知床半島エゾシカ管理計画」の策定に係る検討を行いました。

(1) ヒグマ関係

- 「第2期知床半島ヒグマ管理計画」(2022年～2028年)の主なポイント
- ・北海道ヒグマ管理計画の改定内容と十分に整合を図る観点から、次期計画期間を従来の5年間から6年間に一時的に変更（第3期からはまた5年間隔とする予定）。
 - ・環境研究総合推進費「遺産価値向上に向けた知床半島における大型哺乳類の保全管理手法の開発」により精度の高い個体数推定結果等が得られたことを踏まえ、今後の個体群管理及び個体管理のあり方検討を進める旨記載。
 - ・管理目標の一つである雌ヒグマの人為的な死亡総数（上限数）の目安を見直し。
 - ・自然公園法の改正等を踏まえ、公園利用者や地域住民に対する指導・啓発の徹底や必要な情報の公開と周知を行うことについて明確化。
 - ・その他、行動改善が見られない「段階1+」の個体を問題個体として明確化したほか、ゾーニング範囲等について、現行計画期間中の実態も踏まえて見直し。
 - ・モニタリングの内容として、出没個体等の遺伝子試料の収集や分析について明確化。また、必要な調査・研究としてハイマツ結実調査を追加。

(2) エゾシカ関係

「第4期知床半島エゾシカ管理計画」(2022年~2027年)の主なポイント

- ・ 特定管理地区である知床岬において、エゾシカの生息密度は計画期間中ほぼ横ばい傾向を示していたが 2021 年の発見頭数が急増したことを受けて、新たな捕獲方法等の検討を行い、管理の目標を見直し。
- ・ 地域住民を含む利害関係者へのヒアリング結果も踏まえて、隣接地域のエゾシカを地域資源として位置づけ、管理目標として新たに数値目標を設定、狩猟と有害鳥獣駆除のバランスをとるための協議の場を設置することを明記。
- ・ これまでの植生モニタリング調査結果も踏まえて、植生の回復段階と植生指標の評価の考え方を一部見直し。

(3) ヒグマ・エゾシカ共通

長期モニタリング関係

- ・ 第2期計画の策定へ向けて、科学委員会で整理している総合評価に係る枠組みに基づき、評価指標、モニタリング項目の位置づけや評価基準について見直しを行いました。
- ・ 現行計画において本 WG で評価を担当しているモニタリング項目や評価基準等は、概ね現状同様で整理を進めることとしました。
- ・ 気候変動の影響又は影響の予兆を把握するため、森林ではエゾマツ、高山帯ではササ類やハイマツを指標種としてモニタリングを行うことが有用とされました。
- ・ 他の WG と連携して評価すべき評価項目(特にヒグマ関連)について、どのような検討の進め方が良いかが課題とされました。

今後の WG の進め方について

- ・ 次年度から本 WG を「エゾシカ WG (植生指標検討部会を含む)」と「ヒグマ WG」に分離することとする体制見直し案について審議し、承認されました。(別紙参照)

3. 今後の予定(案)

令和4年度(2022年度)は、エゾシカ WG とヒグマ WG について、各2回程度の開催を予定。

- ・ 第1回会議 令和4年(2022年)5~6月頃 斜里町又は羅臼町
- ・ 第2回会議 令和4年(2022年)11~12月頃 釧路市

WG体制の見直しについて

1. 経緯

2021（令和3）年度第2回エゾシカ・ヒグマワーキンググループ（以下「WG」という。）において、宇野座長を始め、委員より以下の提起がありました。

- ・本WGでは、主にエゾシカとヒグマの課題を扱ってきたが、取り扱う課題が広範であり、議論が尽くせない状況。議論の場を分けるなどの整理が必要。
- ・本WGは、もともとはエゾシカ対応ということで始まった。その後、エゾシカに関連することとして植生、陸上生態系（ヒグマを含む）と守備範囲が広がった経緯あり。

2. 今後の体制（案）

本WGを、「エゾシカWG」と「ヒグマWG」に分離。

今後の体制（案）

	エゾシカWG		ヒグマWG
		植生指標検討部会	
検討課題	主にエゾシカの管理による陸域生態系（特に植生）の保全 （例）エゾシカ管理計画	エゾシカ個体群への人為的介入基準を検討 （例）植生指標の開発	健全なヒグマ個体群の維持及びヒグマと人間活動との軋轢の軽減 （例）ヒグマ管理計画
検討頻度	毎年開催	必要に応じて（管理計画見直し時期に集中検討）	毎年開催
構成	委員	委員（現状同様）	委員
	地元自治体 斜里町、羅臼町	-	地元自治体 斜里町、羅臼町、標津町
	事務局 環境省釧路自然環境事務所 林野庁北海道森林管理局 北海道	事務局 環境省釧路自然環境事務所 林野庁北海道森林管理局	事務局 環境省釧路自然環境事務所 林野庁北海道森林管理局 北海道

今後の「エゾシカWG」及び「ヒグマWG」の委員構成については、現状のWG委員の専門性等を踏まえ、科学委員会委員長、エゾシカ・ヒグマWG座長、事務局で改めて検討予定

(参考) 科学委員会・地域連絡会議の体制

地域連絡会議に係る体制図はヒグマ関連のみ抜粋

